



片桐勝彦の

# バイレ フラメンコ

Acompañamiento del baile

著者プロフィール: 日本を代表するフラメンコギタリスト。幼少の頃よりヴァイオリンを始め、その後ギターを独習。A-JARIやチリクマルカ等のグループ活動を経て、明治大学在学中にフラメンコギターを始める。98年から長期渡西。マドリードのタブラオ「カサ・パタス」やセビージャのラジオ番組などに出演。帰国後はカニサレスとの共演やNHK「音楽のある街で」出演。主な参加CD・DVD: 風回廊(渡辺えり)、天国を見た男(沢田研二)、Boy(coba)他。Estudio ROMERO主宰。

VOL.12

## Fandangos de Huelva ②

～はじめに～ 先月はファンダンゴ・ナトゥラルの説明から始まって、ファンダンゴ・デ・ウエルバのコンパス、踊りの構成例、唄の構造などを確認しました。今回は踊りに付き物のサリーダやシメ歌を取り上げます。

### ファンダンゴ・デ・ウエルバのサリーダ

ファンダンゴ・デ・ウエルバは、ギターが前奏部分でコンパスを刻んでいる間に唄い手が軽く「アー」とか「イー」と言った拍子取りをするぐらいで、本来しっかりと独立したサリーダを唄うことは稀です。しかし、踊りが入ると歌詞やメロディのついたエストゥリビージョ(estribillo)をサリーダ代わりに唄うことが多いです。サリーダとしてよく唄われる曲をいくつか紹介しておきましょう。※エストゥリビージョとは日本語で言うサビや繰り返し部分のことです。

#### サリーダ1

Sentao en el valle,	谷間に座って
debajo de un limonero,	レモンの木の下で
escucho sonar el río,	川のせせらぎを聞く
mi sombra da en el romero.	ローズマリーに私の影が差し込む

Camarón de la Isla

この曲は1981年にリリースされたカマロンのアルバム「Como el agua」の中に「Sentao en el valle」というタイトルで収められています。録音ではファンダンゴ・デ・ウエルバの唄の後にこのエストゥリビージョを付けた形で唄っておりますが、この手法はこの何年前に流行したエストゥリビージョ「Yo me voy a la Alameda」でも用いられています。

#### サリーダ2

Yo me voy a la Alameda y allí me pongo a cantar	アラメダへ行って、唄おう
los ojitos de tu cara no se pueden aguantar,	綺麗なあなたの目に耐えられない
No se pueden aguantar de lo bonitos que son,	耐えられない、綺麗なあなたの目
yo me voy a la Alameda niña de mi corazón.	アラメダへ行こう、愛するあなたへ

Los Marismeños

## ファンダンゴ・デ・ウエルバのシメ唄

カンテソロの場合、ファンダンゴ・デ・ウエルバはサリーダ同様にシメ唄無しで終わることがほとんどです。しかし踊りが入ると必ずと言っていいほどシメ唄が付きますので、よく唄われるシメ唄をいくつか紹介しましょう。

### シメ唄1

Arrímate ay, gitana mía	私のヒターナ、そばに来て
que yo no puedo vivir sin ti,	あなたなしでは生きられないから
vivir sin ti yo no puedo más,	あなたなしでは生きられない
ay, gitana mía me vas a matar.	ヒターナ娘、あなたのせいで死んでしまいそう

Paco Tronjo, Angel y Caito, Arcángel, Jose Anillo

### シメ唄2

Hasta en Italia	遠くイタリアまで
se cantan los fandangos	唄われるサンタ・エウラリアの
de Santa Eulalia.	ファンダンゴ

Arcángel

### シメ唄3

Quítate del sol que te quemas,	強い日差しをよけて、
que quítate del sol que te pones	日差しをよけて
que la carita morena.	顔が真っ黒になっちゃうから

Antonio Mairena, Arcángel

上記のシメ唄は1-2、または1-3のように二つセットで唄われることもありますが、一つずつ独立して唄われることも多々あります(シメ唄2の後にシメ唄1や3を唄うことはありません)。通常シメ唄はテンポが上がってから唄われるので、一見ブレリアのようなリズムにも感じられます。しかしあくまでもファンダンゴのコンパスなので、混同しないようにして下さい。便宜上12拍目からカウントした場合、シメ唄1は9か10か11拍目に終わることが多いです。つまりシメ方は決まっていません。シメ唄2は唄の旋律と同時にアクセントで終わります(ブレリアでの3拍目)。

### コラム

シメ唄1の歌詞中に romero(ロメロ)という単語が出てきます。このロメロとはローズマリーのことですが、他に peregrino と同じ巡礼者という意味もあります。ウエルバは先月号で説明した通り、ロシオ巡礼でも有名な場所。このロメロには二つの意味(ドブレセンティード)が隠されていると言っていいでしょう。私の主宰するスタジオの名前も Estudio ROMERO と言いますが、私がスペインに住んでいる時、ヒターノ(ジプシー)たちが道端に咲いているローズマリーを必ずと言っていいほど摘んでいく姿をよく目にしました。ローズマリーはヒターノたちの幸運のシンボル。「ローズマリーを見て何もしないということは、自ら幸運を逃してしまうことだ」と友人のヒターノたちは言うておりました。皆さんもローズマリーを見つけたら、摘んでみてくださいね。

今月は紙面の関係で、サリーダとシメ唄の歌詞の説明だけになってしまいました。昨年4月から3拍子系の曲種を順に取り上げてきましたが、そのコンパスやアクセントを理解していただけでしょうか。次回はがらっと雰囲気を変えて、グアヒーラを取り上げる予定です。お楽しみに。

音源は片桐勝彦 HP で聴けます！ URL <http://www.toshima.ne.jp/~kata/katsu>  
同内容のバルマクラス、スタジオロメロで開催中。3月9,23日,20:40~終電ぐらいまで